

がん検診の説明

※下記に紹介している以外の検査も受診可能な場合があります。ただし、その場合は全額自己負担となり、「受診票」には検査項目と、その検査費用は記載されませんので、予約時に料金を健診機関にお尋ねください。

子宮がん ▶ 対象年齢と推奨される受診間隔 20歳以上 2年に1回

子宮の入口にできる子宮頸がんの検査です。子宮頸がんはハイリスク型のヒトパピローマウイルス (HPV) というウイルス (性交渉で感染) が原因。若い世代にも増加しています。

子宮頸部細胞診検査

子宮頸部の細胞を採取し、その中のがん細胞の有無を調べます。また、がんになる前の段階 (異形成) で見つけることができます。

注意

- ・妊娠の可能性のある方、妊娠されている方は受診できません。
- ・生理中の方は正しい結果が得られませんので検査をお断りする場合があります。生理中を避けて受診してください。

乳がん ▶ 対象年齢と推奨される受診間隔 20歳以上 2年に1回

早期発見により、ダメージが少なく済みます。

マンモグラフィまたは乳腺超音波検査 (マンモグラフィは40歳以上)

マンモグラフィは、乳房を片方ずつ、プラスチックの板で挟んで圧迫し、乳房を平らにしてX線撮影をします。個人差はありますが、痛みを感じる方がいます。ごく早期の小さながんを見つけることができます。

乳腺超音波検査は、機械から出た超音波が臓器にあたってはね返る様子を画像にします。

痛みなどはありません。ごく小さなしこりを見つけることができます。

40歳以上の方はマンモグラフィをお勧めします。

注意

- 以下に該当する方は検査をお断りする場合があります。
- ・妊娠の可能性のある方、妊娠されている方、授乳中の方
 - ・豊胸手術を受けた方
 - ・ペースメーカーや除細動器等、医療機器を埋め込まれている方

胃がん ▶ 対象年齢と推奨される受診間隔 40歳以上 2年に1回

主な原因はピロリ菌の感染です。

胃部内視鏡検査または胃部X線検査

胃部内視鏡検査は胃にファイバースコープを入れて胃内部を直接観察します。苦痛が緩和されるよう喉に局部麻酔をします。経鼻内視鏡は比較的楽に受けることができます。

胃部X線検査は造影剤 (バリウム) を飲んで、胃にX線をあてながら撮影します。

注意

- 以下に該当する方は検査をお断りする場合があります。
- ・胃の手術後の方
 - ・当日の体調が悪い方 (高血圧、発熱、重度の便秘など)
 - ・食事の注意など検査前の注意事項が守られていない方

大腸がん ▶ 対象年齢と推奨される受診間隔 40歳以上 1年に1回

ライフスタイルの変化により男性も女性もかかる方が増加しています。

便潜血検査2日法

体外に排出された便の中の血液反応を調べ、大腸内の出血の有無を確認する検査です。便の中に血が混ざっていた場合は、潰瘍やポリープ、がんがある可能性がありますので必ず大腸内視鏡などの精密検査を受けましょう。

注意

- ・生理中、生理直後を避けて受診してください。